

日本に居住する外国人の多言語使用の諸相 —在日パキスタン人コミュニティを事例に— 福永 由佳 (国立国語研究所・日本語教育研究領域)

問題の所在

グローバル化の進展により、人、資本やモノ、情報や文化の国境を越えた移動が常態化している。このような社会変動は言語使用の多様化・流動化をもたらしたと指摘されているが、日本の多言語性については基礎研究が不足している。

本研究の目的

日本に居住する外国人はどのような言語が使用でき、日常生活でどのような言語をどのように使用しているのかを把握する

使用するデータと調査協力者の内訳

在日パキスタン人コミュニティを対象に言語使用と言語学習に関する質問紙調査を2017年に実施し、そのうちのパキスタン人回答(91名)を使用する。

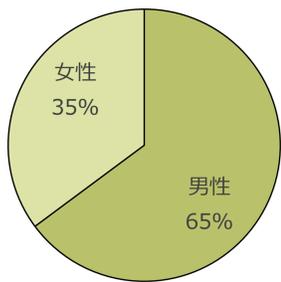


図1 性別

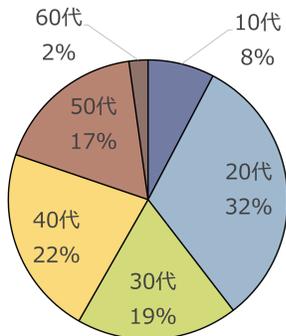


図2 年齢

Q1: 母語以外で、日常生活に困らない程度にできる言語
21言語種のリストから、最大5言語を選択 (複数回答)

Q2: 主要5言語の言語能力 (自己評価、5段階)

Q3: 領域別言語使用: 9領域 40場面

<言語使用の程度: 5段階評定>

- 1. 全く使わない 2. あまり使わない 3. ときどき使う 4. よく使う 5. いつも使う

Q8. 家庭内のコミュニケーション

(1) 自分の子どもと話すときは何語をどのくらい使いますか。1 (全く使わない) から 5 (いつも使う) から当てはまる数字を選んで、その番号を各言語の()に記入してください。

- 1. 母語(あなたの民族のことば)() 2. ウルドゥー語() 3. アラビア語() 4. 英語() 5. 日本語()

結果 1-1: どのような言語が使えるのか

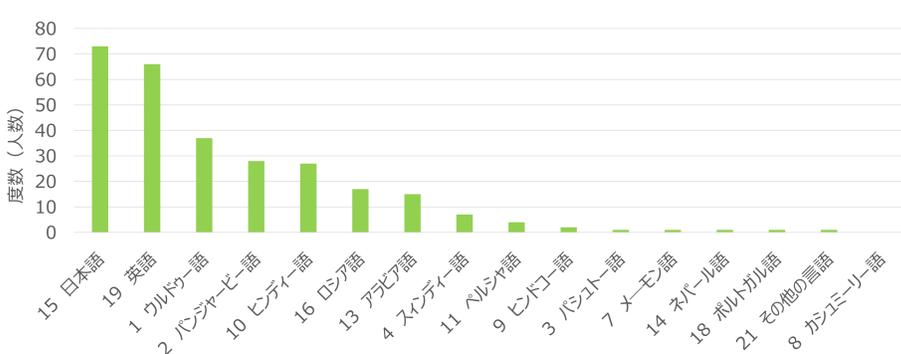


図3 母語以外で、日常生活に困らない程度にできる言語 (複数回答)

結果 1-2: 言語能力 (自己評価)

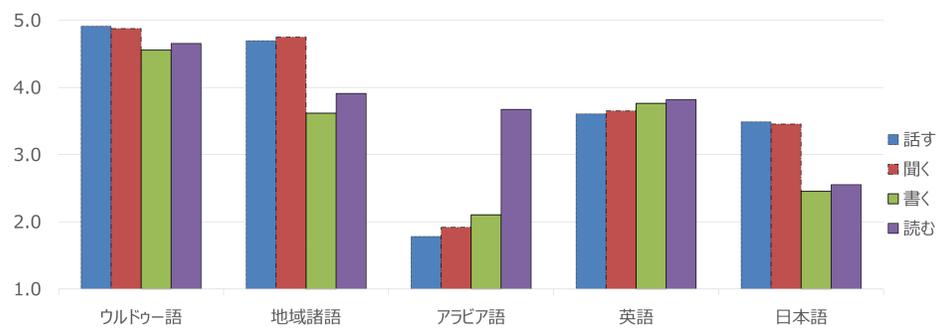


図4 主要5言語の能力 (自己評価、5段階)

結果 2: 複数の言語が使われているのか

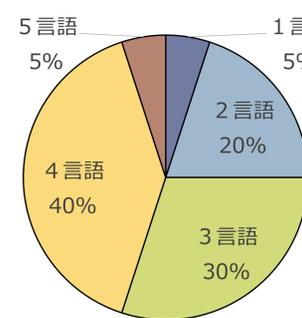


図5 使用言語数による場面の割合

表1 使用言語数別 言語組み合わせ

言語数	言語種組み合わせ	%
1言語	日本語	100%
2言語	ウルドゥー語 + 地域諸語	13%
	英語 + 日本語	63%
3言語	ウルドゥー語 + アラビア語	25%
	ウルドゥー語 + 英語 + 日本語	83%
4言語	ウルドゥー語 + アラビア語 + 英語	17%
	ウルドゥー語 + 地域諸語 + 英語 + 日本語	94%
5言語	ウルドゥー語 + アラビア語 + 英語 + 日本語	6%
5言語	ウルドゥー語 + 地域諸語 + アラビア語 + 英語 + 日本語	100%

結果 3: 多用される言語種はなにか

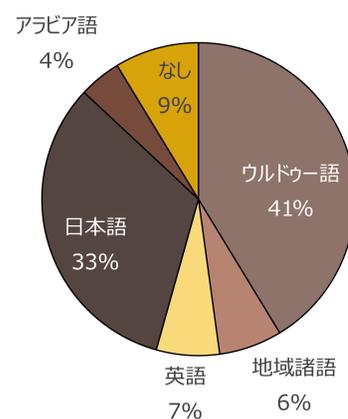


図6 多用される言語の割合 (使用度 4 以上)

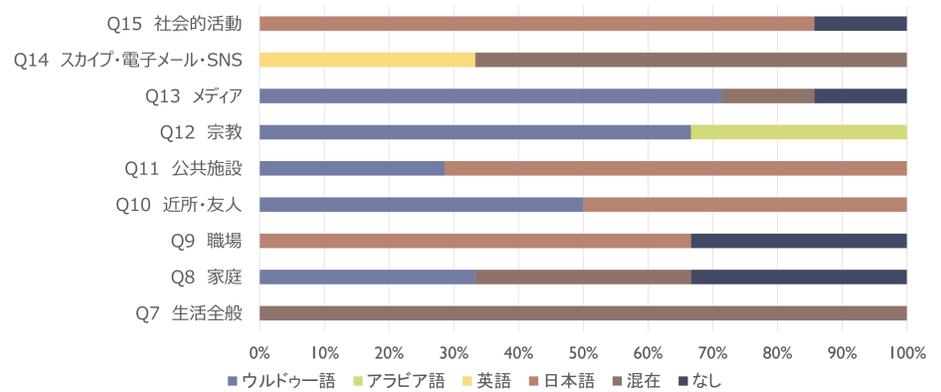


図7 領域別の傾向

考察

- 日本に暮らすパキスタン人は、多言語社会パキスタンで既に多言語使用者であるが、日本移住後に日本語やロシア語を習得し、さらに言語レパートリーが豊かになっている (日本での多言語化の深化)
- 不均衡な言語能力4技能の背景には、学習機会、言語使用の用途・場面などの要因がある (不均衡な言語能力技能)
- 日常生活では複数の言語が使用される場面が多いが、日本語モリソルな場面もある (複数言語使用による生活)
- 日本語とウルドゥー語は言語生活において重要な役割を担う (日本語以外の言語の必要性)

本研究は「多言語環境にある外国人の日本語観と言語選択に関する研究—在日パキスタン人を中心に」(JSPS科研費 26370522の助成)および共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」で得られた成果の一部である